

Community Design Cafe

コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)

たくさんの人が集い、「コミュニティ」を「デザイン」する
そんな「カフェ」のようなセンターを目指します

CDC News Vol.025 2006.10
生きがいしごとサポートセンター阪神北

オープンフォーラム

指定管理者制度の 実際とこれから



去る8月19日、川西市市民活動センター「パレットかわにし」に於いて、今秋一旦出揃った感のある「指定管理者制度」について、検証と今後の動向を見据えようというフォーラムを行ないました。

平成15年9月2日に地方自治法の一部が改正され、「公の施設」の管理方法が「管理委託制度」から「指定管理者制度」に移行されました。この制度の導入は、NPOや市民活動団体にとって「民」の活力が反映できるチャンスでしたが、実際の運営状況はどう変わったのでしょうか。

このオープンフォーラムでは第1部講演「よりよい制度として活かすには？」中川幾郎(手塚山大学大学院)教授、第2部「公益法人制度の動向もふまえて」を、4人のパネリストの皆さんからの提言という構成で実施しました。今回は前半の基調講演をご紹介します。

現在の問題点から提案したいこと

I. 施設の本来の使命を具体的に示す

驚いたのは、指定管理に出される施設について、その施設の持つ使命がきちんと掲げられていない、あっても“地域文化の振興”というようなあまりに抽象的なものや、お題目程度のものでしかないという現実。

まずこれがしっかりあって初めて制度そのものの運用ができるという原点に気づいてほしい。

II. 施設機能に応じた指定管理の出し方を考える

施設には、大別して公園管理や駐輪場のよう単純サービスでいいものと、図書館や参画センターのようにソフトとしての事業機能が欠かせないものがある。またその複合型もあるので、行政側がその特性を理解し、同じ施設でもメンテナンス部分と事業部分を分けて管理に出すなど配慮すれば、さらに互いの得意分野を活かした運営が可能になる。

III. 選考基準づくりと選考委員には市民が参画する

現状は選考基準について自治体独自のものはほとんどない。総務省自治局長通知による基準(公平性・安定性・経済性・施設効用の最大化)をそのまま踏襲するのではなく時間をかけて、その地域の利用者である市民が計画段階から関わる必要がある。

また図書館のように事業機能を重視する施設については現状の入札方式(価格で勝負、品質は一定)でなく、**コンペ方式**(価格は一定、品質で勝負)とするべきだ。

さらなる進化型としての提案

始まったばかりの制度であるため双方が模索段階にあるが、行政も「上がやれというからやる」のではなく、新たな提案として指定管理者制度を、「**市民からの提案公募型協働事業**」に転換できると、この制度自体がかなり意味のある社会資本の投資になるはずだ。

所感・雑感

センター長 森 綾子



▼ 鬼に金棒論

成功する社会起業家はそれだけで鬼のように強い人たちばかりである。「鬼」と言う言葉は語弊があるかも知れないが許して欲しい。

事業を考え、賛同者を募り、お金を都合し、立ち上げていく様は、まるで人間技とは思えないほどのエネルギーを発している。

そんな元気な人（なぜか女性が多い）の支援をするのが私の仕事である。

鬼のような人は、ほとんどがうまくいく。良い悪いは別として成功していくケースが多い。でも私の好みとしては、もう少し心とスキルの成長を求めたい。

心の成長とは、事業の成功ばかりを優先せず、仲間を大切にできる心優しい寛容な人になってくれること。スキルの成長とは、事業の創造性だけでなく、経営とかお金が読めること、パソコンも使いこなしてプレゼンテーション能力もつけよう。そんな能力が金棒ではないだろうか。

それで「鬼に金棒！」という言葉をかみしめている。

▼ 新しい社会起業家がいる

最近の若者はパソコンがうまい。大学に長くいた分、社会性もあり、それに学問がくっついていて、いいなあと思う。経営を学びパソコンが出来て、仕事の創造性があれば起業も可能だし、仕事をしていく上でも新しいモデルとなる。

そんな彼・彼女を見ていると新しい起業家が生まれきたなと思う。

以前の起業家は思いつきや行動力はあるものの、経営力に欠けている人が多かった。仲間に恵まれて最初はうまく行くものの、途中でスタッフに裏切られたり去られたりしてショックを受けた話もあった。

私はそんな時、自立という言葉思い出す。一人でもやっていけるけれど二人でも生きていける、そんな生き方が好きだ。

それでも何かのアクシデントでその人とうまくいけなくなり別れても、また一人で生きていけるという強さが自立。

仕事上でも、寄りかかることなく、力を合わせながらも、いつでもお互いに自立しているそんな経営者を目指したいと思っている。

▼ C・Bの極意はバランス感覚

コミュニティビジネスの経営はお寺の経営と似ている。お寺は布教以外にも、お墓の販売や霊園経営、お葬式、法要の他に、幼稚園の経営とか、駐車場の運営などもしている。

規約に基づき社会貢献を旨とするが、あまりにもそちらに傾きすぎると経営できなくなる。さりとて儲けに走りすぎると、檀家の皆さん（NPOの会員と同じ）が逃げていく。

これをうまくやるにはひとえにバランス感覚が必要である。

採算をとる意味では最大利潤でなく最適利潤をめざし、檀家や会員に賛同を得る意味ではミッション（使命）を大切にできる。バランスは計算ですとうまくいかない。生き方がバランスをとってくれる。どういう生き方をするか。これが修行の道。より、人間として成長をめざすこと。これが成功の秘訣だということに思い当たる。

お奨めの研修

世界につながる 未来に通じる コミュニティビジネス をめざす 事務局とリーダーのための1泊研修会

.....

アメリカでは学校・博物館、病院や研究センターなど、日本であれば行政が担っている仕事のかなりの部分を NPO が運営しています。「社会起業家」と呼ばれる、このような人達は何をめざして活動を始め、運営しているのでしょうか？日本ではまだ始まったばかりのコミュニティビジネスですが、先進事例から学び、来たるべき時代に備え、自らがそれにふさわしい姿をどう創り出せばよいのかを探ります。

また今回はストレスに強くなるための、ストレス解消ヨーガも盛り込み、団体の継続には欠かせない健康管理の方法について学びます。是非この機会にご参加ください。

日 時： 10月14日(土) 13:00～ 15日(日) 13:00

場 所： (特) 国際エンゼル協会 東条研修センター
(集合 13:00 宝塚駅前ワシントンホテル前)

参加費： 10,000円(資料代・宿泊費・食費含む)

交流会費 2,000円(別途)

お問い合わせは阪神 NPO 連絡協議会事務局(生きがいしごとサポートセンター阪神北 内) **Tel** 0797-87-4350

新米事務局のための実務講座 ⑥

会計は“悩みのタネ”ですか？

当センターでは毎年、会計関係の講座を数回、会計専門家コンサルは去年の実績で33回実施しています。

でもスッキリ「これでわかった。もう大丈夫！！」とはなかなかいかないのが現実のようです。

何故なのでしょう？

その不安を講座終了後のアンケートから探ると、

- ①企業会計とNPO会計は違うから。
- ②会計担当者が初心者だから。
- ③会計担当者が複数いるので意見がまとまらない。
- ④複式簿記が今ひとつわからないから・・・などなど。

どれももっともですが、どうも「これだ！」という理由ではないようです。

● どこまでが経理担当者のしごと？

さて、一言で会計といいますが、一体どのような作業をさしているのでしょうか。ざっとあげてみると

	業務内容
①	現金管理(現金・預金の出入)
②	伝票管理(領収書・請求書など)
③	帳簿記入(現預金出納帳・振替伝票・総勘定元帳など)
④	支払関係事務(経費・仕入の処理)
⑤	給与計算事務(源泉出納・労務関係)
⑥	資金繰り管理(計画・運用・借入)
⑦	申告・納税事務(法人税・所得税)
⑧	決算業務(試算表・決算書)

こんなところでしょうか。

まだ慣れていない方は「えっ、こんなにたくさんの作業があるとは知らなかった。えらいこっちゃ！」と思われるかもしれません。

でも、はじめから完璧を目指さそうなんて思わずにそういう時は「役割分担」です。

支払関係(④)は直接の担当が一番よくわかっていますし、資金繰り(⑥)は全体の運営にかかわることなので、理事や事務局長が経理のデータを基に担当するのがいいのかもしれませんが。

また出金と入金トラブルを避けるために、別の担当が行なうケースもあります。

団体の運営形態に合わせて分担できる形を考えてみましょう。

そこで注意することは「役割分担表」のように、明文化して“誰が・いつまでに・どこまで・何をしておくのか”を、団体内(担当者だけでなくスタッフ内でも)共有しておく事。

なんとなく「あの人がやるべきだよ」とそれぞれの思いが食い違っていたなんてことのないように。

● ところで・・・

ちょっとお聞きしますが、あなたの団体では個人が立て替え払いをよくしていませんか？

しかもすぐに精算せず、何件かまとめてからとか、月締め後に前月分の支払がよく起こる・・・などということはないでしょうか。

会計の基本は「管理」と「記録」なので、団体内で少なくとも、毎月の日と毎年度の期末がいつかということと、遅れる事によってどのような不都合が生じるかという、会計の流れを知ってもらうことは今後の処理上とても大切なことです。

ぜひ、協力してもらえるよう簡単な説明書などをつくっておきましょう。

● 究極の選択 「単式簿記」or「複式簿記」

これは、毎回必ず会計講座で出る質問です。

ズバリ選択基準の決め手は「事業数」と「活動資金」。

A.単数であれば⇒単式簿記。

B.複数(の可能性が)あれば⇒複式簿記。

つまり事業が1つだけで、しかも助成・補助・委託金などを受ける可能性がなければ、単式簿記でいけますが、それ以外はという形(手書き・エクセル・会計ソフトなど)であれ、複式簿記でやる必要があるということです。

「会計だけでも大変！と思っているのに、複式簿記なんていわれてもねえ・・・」という声が聞こえてきそうですが、最大のハードル『仕訳』の種類も団体ごとに見れば、そう多くはありません。1ヶ月分やってみれば、あとは決算まではその繰り返しということに気づかれると思います。

当センターでは相談会も随時実施していますので、この際一気に乗り越えてしましましょう！！



講座・相談のお知らせ ◆印の実施場所は生きがいしごとサポートセンター阪神北です

- ◇スキルアップ:「世界につながる・未来に通じる、コミュニティデザインをめざす事務局とリーダーのための一泊研修会」
10/14(土)~10/15(日) 於(特)国際エンゼル協会東条研修センター 参加費:10000円交流会費別
- ◆情報発信:「新・ブログ講座」9月28日(木)10:30~12:00 参加費:1000円(1団体)
- ◆会計実務:「NPO会計・複式簿記Q&A」10月26日(木)14:00~16:00 参加費1000円

就業支援:あなたと仕事について考える「キャリアカウンセリング」(1回50分)無料
※事前にご予約ください。

コミュニティサイト大集合!(NPOブログ・バスマップ・地域安心お助けネット・宝塚まちづくり協議会)

阪神・宝塚・川西の地域情報ポータルが始まります。地域サービス情報や宝塚などのまちづくり情報が盛りだくさん。日々のちょっとした困りごとにも相談でき、身近でタイムリーな情報をお届けします。

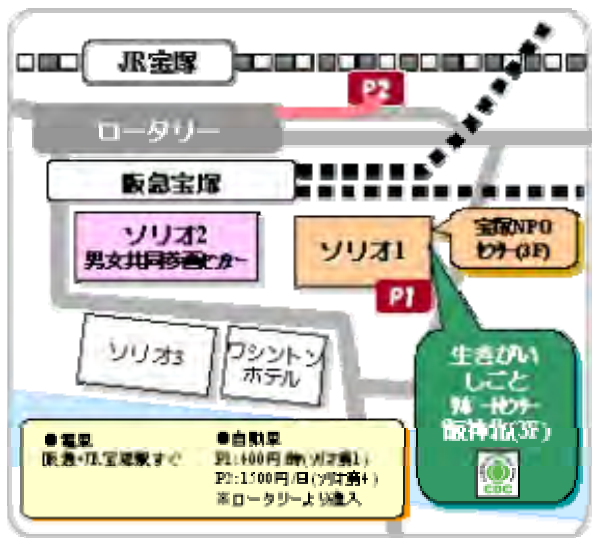
<http://www.hnpo.comsapo.net>

ひきつづき、お願い ■ 従来よりお願いしておりましたニュースレターのお届け方法の件ですが、順次、郵送からE-mail送信(PDFファイル版)へ、切替えをさせて頂いております。これからも、よりタイムリーな情報提供を心がけていきますので、皆様のご協力を何卒よろしくおねがいいたします。なお過去のニュースレターはホームページからご覧いただけます。

<http://voluntary.jp/hnpo-net>

編集後記 ■

やっと暑い暑い夏が終わったと思えば、大型台風の到来。被害を受けられた地域の皆様にお見舞い申し上げます。個人的には突然始まった介護の日々。いつかは通る道と予想はしていたものの、現実是一段と厳しいものがありますね。でも、秋は講座もイベントも、大好きなお祭りも盛りだくさん。気分を一新してがんばります。〔Y〕



生きがいしごとサポートセンター阪神北
~コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)~
〒665-0845 宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
TEL&FAX 0797-87-4350/4351
E-mail [cdc@hnpo.net/](mailto:cdc@hnpo.net)
URL <http://voluntary.jp/hnpo-net/>



(特)宝塚NPOセンター
〒665-0845 宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
TEL&FAX 0797-85-7766/7799
E-mail zukanpo@hnpo.net
URL <http://voluntary.jp/zukanpo/>

「生きがいしごとサポートセンター阪神北」は、兵庫県「コミュニティ・ビジネス等生きがいしごと支援事業」の補助を受けて、特定非営利活動法人宝塚NPOセンターが実施・運営しています。同事業は、生きがいしごとサポートセンター播磨、生きがいしごとサポートセンター神戸西(ウエキス)、生きがいしごとサポートセンター神戸東(ワラビー)、生きがいしごとサポートセンター阪神南(UN)の5拠点にて運営されています。